

「若者の心を掴む採用活動」

3月3日（金）13:30～「中小企業人材確保セミナー」講演会

未来をカタチにする
株式会社 **さんぼう**
教育マーケティングセンター
学校広報支援チーム
入江 剛

自己紹介

入江 剛

1976年生まれ。

大学卒業後、株式会社さんぼうに勤務。25年目。

今まで東京・埼玉・千葉・新潟・長野・山口・福岡・佐賀・長崎・熊本・鹿児島・沖縄の大学・短期大学・専門学校・高等学校を担当し、特に高校の進路・進学・就職に関わるイベントや講演会を行う。都道府県の地方自治体・労働局の大学生・社会人の就職支援の事業にも関わる。現在は高校生の進路情報誌の発刊を担当。

毎年100～150件の高校内での講演会や就職面接指導・進路個別相談など関わっています。

今の若者の生活に関する変化

- 家族間の仲が良い（友達感覚。なんでも相談できる）
- 携帯・端末を常日頃利用している。ネット社会。コミュニケーションの減少。
 - ※あらゆるものが各自で検索できる。（他人に質問する機会が少なくなった）
 - ※ネットショッピング・ウーバーイーツ・オンライン授業
 - ※顔はオンラインで知っているが、直接会って話したことがない同級生。

若者（高校生と大学生との）動きの違いと変化

- 高校生 高校内で公開された求人票
 - ※職種は限られるが、多少選べるという意識
- 大学生 リクナビ・マイナビなど
 - ※就職課で相談するよりもネットで各自選び行動する機会が増えた

会社選びにおける若者の基準とは

- ネットでの評判（転職サイトなど）
- 企業の見分け方（一方的な見方）
- 求人票の着眼点（毎年の採用者数⇒退職は？）

東京都外からの就職希望者について

- 大学生 他県の地方自治体 Uターン就職に力を注いでいる。
- 高校生 地元の大学や専門学校への進学率が増えている。
※経済的な事情を抱える生徒 = 奨学金制度の充実

⇒東京都で自活する魅力を感じている若者は多いが
都内で暮らしたことがない若者は不安が多い。

高校の先生達の悩み

- 職業意識が低すぎる（無理はしなくていいと保護者の意見も。コロナ禍の影響など）
- 社会常識が足りない（外部の大人との接触機会が少ない）
- 自立心が少ない（将来は自立するという意識がない。アルバイト感覚）
- 勉強しない（社会に出て生きていくためには。自宅住所書けない生徒も）
- 調べも考えもせず、『どこがいいか』聞いてくる。
- 1月になっても受けたい企業を決めきれない。
- 就職試験に一度落ちるとショックで次の企業を探せない（立ち直るまでに時間がかかる）

高校の就職指導

- 職業観
- さまざまな職種
- 卒業生講演（スピーチ）
- 挨拶・礼法指導
- 就職の流れ・スケジュール指導
- 筆記試験（問題集）
- 自己PRの指導
- 面接指導（担任の先生・進路指導の先生・教頭先生・校長先生など）
- 着こなし講座（服装・身だしなみ）

大学の就職指導

- キャリアガイダンス
- 基礎力養成
- インターンシップ
- 自己分析
- 業界研究
- 就職活動の進め方
- 自己PR
- ブラッシュアップ
- 個人面談
- 企業説明会（学内）

面接試験に際し、どんな意識で臨んでいるのか。

- 挨拶・入退室・礼法（高校生）
- 志望理由
- 自己PR
- 業界・企業研究（大学生）
- 学力試験など（大学生）

将来

仕事	趣味や余暇活動	世間体
老後	健康	技術的能力
自己啓発	休養	安定
家庭生活	金銭(収入)	自由
名誉	社会的活動 (地域活動・ボランティア等)	人間関係
達成感		

仕事選択

仕事内容	勤務地・転勤	収入
休み	職場雰囲気	労働時間
世の中への貢献度	適性	学業をいかせる
会社規模や有名度	雇用形態	プライド (他人からの評価)
コミュニケーションが必要	PCスキルが必要	専門知識や資格が必要
体力が必要	創造性が必要	

若者（特に高校生）が求人票を見て考えている事

1. 残業（予想外な事が苦手）
 2. 休暇（余暇の時間を重要視している）
 3. 通勤（移動に不安）
 4. 始業時間（朝起きれるか不安）
 5. 退職を重く受け取れない
 6. イメージがわからない
 7. コミュニケーションに自信がない
- ※給与の額は以前ほど気にしていないように感じます。

1 残業（予想外な事が苦手）

- 事前に知らされていない急な予定が入る事をとても嫌がります。

⇒予め（週に〇日、〇時間程度）

2 休暇（余暇の時間を重要視している）

- 昔ほど出歩かない若者多い。
- 遠出は少ない。（経験が少ない）
- 自宅で過ごす若者多い。

⇒先輩達の休日はどんな過ごし方を

⇒休日出勤の頻度

3 通勤（移動に不安）

- 自転車通勤できる企業を探す高校生も増えた。
- 車の運転を恐れる高校生も少なくなっている。
- コロナ禍の間は外出の期間が極端に減っている。

⇒公共交通機関・電車や車通勤の割合など

4 始業時間（朝起きれるか不安）

- 朝食をとらず、早起きが苦手な若者が多く感じます。
- 可能な限り自宅でゆっくりしたい。
- 自宅を出る時間が何時なのか気にする。
- ○時に起きるのが普通なのか理解できていない若者も

5 退職を重く受け取れない

- 1つの進路変更のようにとらえる生徒も。
- 保護者が代わりに退職の連絡を行う。
- 先生（就職・進学）⇒保護者（就職・進学・未定）
- 年明けに就職希望者⇒進学希望へ変更した事例も。

6 イメージがわからない

- 実際に仕事に就き、日々どのような過ごし方になるのかイメージがわからない。
- ネットでは趣味など好きな事は頻繁に調べるが。。。
- 受動的な部分も。企業・業界研究できていない若者も多い。

7 コミュニケーションに自信がない

- 年齢が離れている人が苦手。
- 敬語が苦手。
- 来客対応の経験も少ない。
- 他人に話しかける機会も少ない。

対策のご提案（イメージをより沸かせる）

1. キャリアパスを示す
2. ホームページの見せ方
3. 求職者に年齢が近い方も同席させる

対策のご提案

1. キャリアパスを示す

3年後、5年後、10年後、15年後、20年後

役職（担当）・待遇（手取り）など

（アルバイトの方が条件良いのではと考えている若者も）

入社したら。。。のイメージを膨らます。想像できていない若者が多い。

対策のご提案

2. ホームページの見せ方

例) 道路舗装

今まで〇〇〇〇KM舗装した。長さでいうと東京都から〇〇の国の距離

SDGSへの取組

社会貢献している。ゴミの処理1つでも表現の仕方があります。

社会にこれだけ貢献している会社なんだとわかりやすく理解してもらおう。

⇒やりがい・社会へ貢献など 潜在的には関心高いです。

対策のご提案

3. 求職者に年齢が近い方も同席させる

目上の方ばかりだと、身近に感じにくい若者も多い。

年齢が近い人がいるだけで、身近に感じれることも。

〇〇を聞くと失礼にあたらないかなど、身構える若者もいます。

自分も〇年後には、先輩のような感じになれる。。。とイメージ。

ご清聴ありがとうございました